

IV

学校における がん教育の進め方

1 香川県版がん教育プログラムの特徴

1 小・中・高等学校積み上げ型プログラム

小学校では3年生と6年生を対象とし、学級活動として位置付け、3年生ではがんという疾患を通じて、健康の大切さを認識させます。6年生は、がんの原因などから生活習慣の課題を見付け、健康で安全な生活態度の形成を図ることを目的とした内容としています。中学校では3年生の学級活動として位置付け、がんの予防や早期発見の有用性、さらに治療に関することを学び、望ましい生活態度や習慣の形成を図ることを目的とします。各学校・学年とも保健学習との関連をもたせた教材と指導内容になっています。高等学校では2年生を対象とし、保健体育科(科目保健)に位置付け、がん対策に関する保健・医療制度を学びます。さらに、がん患者と家族の体験談を通じて患者への理解を深め、生涯を通じた自己の健康を管理する能力を育成することを目的とした内容としています。

2 1時間完結型授業

発達段階に応じ、医学用語を適切に表現した教材を用い、がんの正しい知識を1時間で学習します。中学校のプログラムは、専門家を派遣し学級担任とのチームティーチングによる授業としています。

また、家庭との連携を目的に授業参観としての実施や、患者体験談による「いのちの授業」としても展開できます。

3 自分のこととして考える学習内容

統計的な視点から香川県の現状を学び、がんは身近な健康課題であることを確認します。自分自身の生活習慣に関心を持ち、がんを予防するために、自分ができることを主体的に考え、さらに大切な人の命を守るためにできることを考える学習内容としています。

4 親世代への検診受診アクション

学習を通じて学んだことを自分の言葉として家族に伝えることにより、家庭内の意識向上を期待し、健康課題に取り組む実践力を培います。家庭や地域社会でお互いに手をたずさえ、がんと向かい合う香川県の実現を目指します。

IV

2 指導の内容

- ① がんに関する正しい知識の普及
- ② がん予防のための生活習慣の改善
- ③ 早期発見、早期治療の大切さ
- ④ 地域の保健・医療体制を知る
- ⑤ 命の大切さを学ぶ
- ⑥ がん医療やがん対策にかかわる専門職の役割
- ⑦ 家庭で取り組むがん予防

3 教材の構成

	視聴覚教材		補助教材		
			ワークシート	事前事後アンケート	その他
小学校	3年生	紙芝居 「ガンダーをやっつけろ!」	○	○	板書用掲示物
	6年生	スライドショー 「がん博士になろう! がんのひみつ」	○	○	板書用掲示物
中学校	スライドショー 「科学的ながんの知識 がんちゃんと学ぼう」 DVD 「がんちゃんの冒険」 (日本対がん協会)		○	○	板書用掲示物
高等学校	DVD 「保健サービスの活用 ～がん検診の大切さを考える～」		○	○	生徒用資料

4 がん教育の指導計画及び指導体制

1 指導計画作成について

がん教育を効果的、円滑に実施するためには、年度当初から年間計画の中に位置付けておく必要があります。年間計画には、実施する学年における具体的な指導計画の内容や関連事項、さらに家庭や地域社会との連携についても計画しておく必要があります。

2 指導体制について

がん教育を適切かつ円滑に進めるためには、全教職員の共通理解を得て、適切な指導体制を整える必要があります。学校においては、その規模や実態に応じた役割分担を行うとともに、相互の連携・協力を図ることが必要です。実施にあたっては、児童生徒のがんに関する知識や意識の観察を行い、家庭や地域関係機関などからの情報等を収集・把握することも必要です。教職員の理解や情報の共有を図るためには、がん教育に関する研修会への参加、研究協議の場や機会を設定するなどが考えられます。

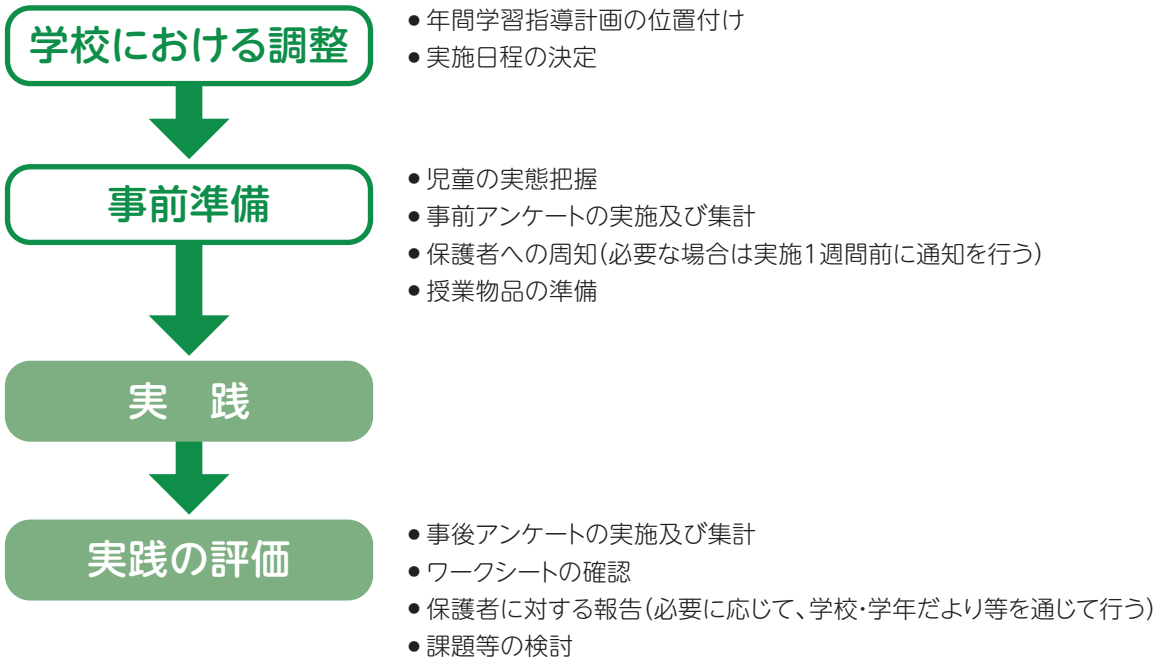
教職員が共通理解を図る事項

- 1 がん教育の意義や目標
- 2 児童生徒のがんに関する知識や意識
- 3 家庭や地域関係者などの情報
- 4 学校保健の目標及び目標との関連事項
- 5 がん教育の指導学年における指導計画の内容や関連
- 6 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間との関連
- 7 指導組織と各教職員の役割
- 8 家庭、地域との連携の進め方

5 実施に向けた手順

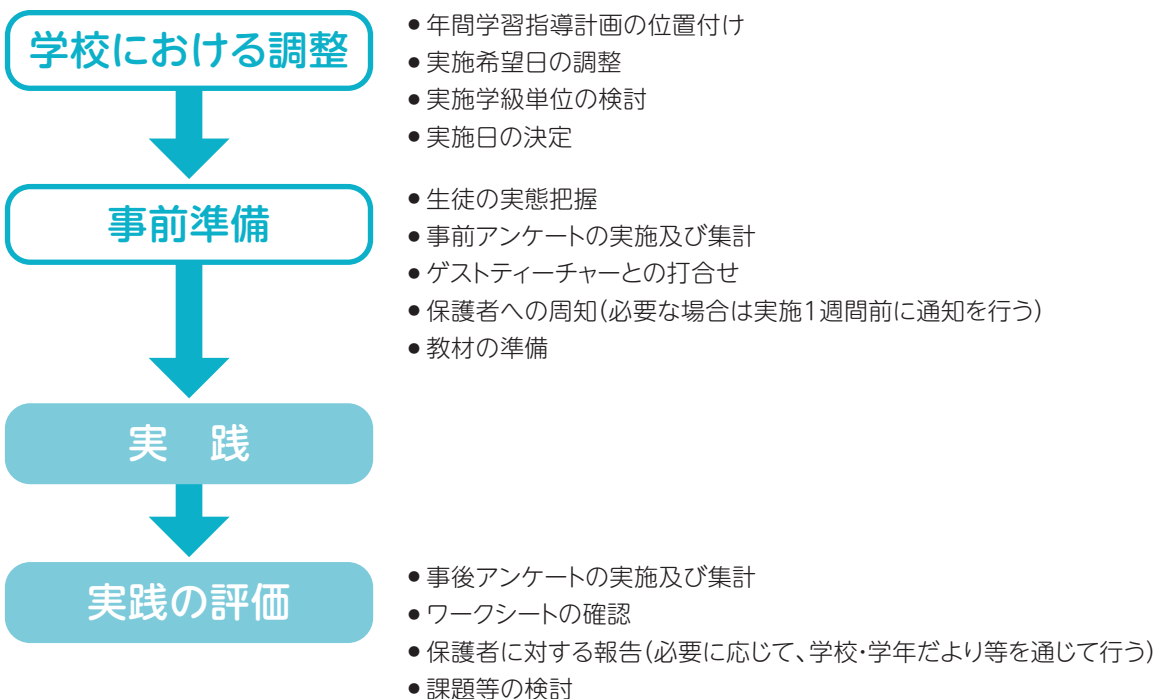
1 小学校

小学校におけるがん教育を実施するためには、年間学習指導計画に位置付け、児童の実態把握や指導体制の調整など、それぞれの学校の状況を踏まえた手順で行う必要があります。



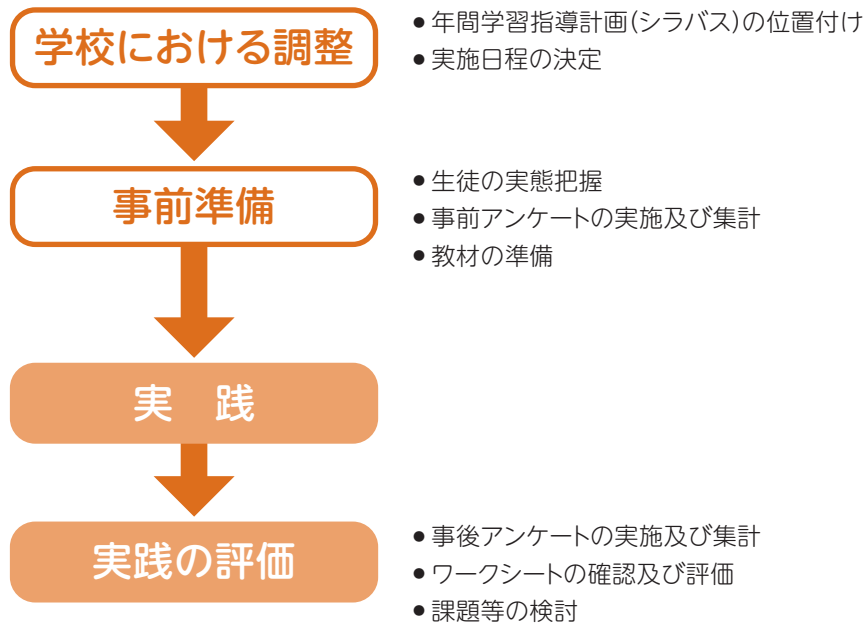
2 中学校

中学校については、年間学習指導計画に位置付け、生徒の実態把握や指導体制を検討し、実施希望日等の調整を行います。実施日について所定の手続きに従い日程調整を行います。



3 高等学校

高等学校におけるがん教育を実施するためには、保健体育科科目保健の年間学習指導計画(シラバス)に位置付け、事前に生徒の実態把握を行い実施します。



6 教材活用の留意事項

1 教材の取扱いについて

香川県版がん教育プログラムに基づく各種教材は、専門家の意見を踏まえ、科学的根拠に基づく指導内容としています。紙芝居やスライド等の順番の入れ替えや削除は教育そのものの目的に影響を与える恐れがあるため控えて下さい。

ただし、児童生徒の家庭等の実態により指導内容の調整が必要であると判断した場合は、スライド等のねらいに影響しない範囲で変更することは可能です。

2 授業者のがん治療体験等について

実施にあたって、授業者のがん治療体験等を取り入れることは、わかりやすい授業を展開するために有効な手段と言えますが、一方で個人的な体験談や感想は、科学的根拠に乏しい場合があることから授業への活用については慎重に行うべきです。

7 家庭・地域社会との連携

がん教育の目標とすべき姿を達成するには、学校と家庭の相互の連携が大切です。学級・学年・学校通信等の活用や授業参観の計画によって保護者の理解を促し、がんを防ぐ生活習慣を家庭全体で取り組むことができるように働きかけることが重要です。

1 (地域)学校保健委員会の活用

がんの予防をきっかけとし、健康づくりを推進するために、異校種間の連携や学校・家庭・地域と関係機関の連携を図り、(地域)学校保健委員会を活用することが必要であると考えられます。

8 正しい情報収集と相談機関の活用

1 がんに関する正しい情報収集

本教材は、専門家のご指導のもと、最新の情報を参考に作成しています。しかし現在、がん予防に関する疫学研究やその他様々ながんに関する研究が進められていることから、今後、新しい情報が更新されることが予測されます。常に最新の正しい情報収集と活用が必要とされています。新しい情報やそれによる指導内容の変更については、適宜「香川県がん対策ホームページ・がん教育」の項目に情報を提供していきませんが、下記の情報検索先も参考にして下さい。

香川県がん対策ホームページ

<http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkosomu/cancer>

国立がん研究センター がん対策情報センター情報サービス

<http://ganjoho.jp/public/index.html>

小児がんについて 冊子「小児がんシリーズ」を参照

http://ganjoho.jp/public/qa_links/brochure/child.html

生活習慣改善によるがん予防法の開発に関する研究

http://epi.ncc.go.jp/cgi-bin/cms/public/index.cgi/nccepi/can_prev/outcome/index

2 相談機関の活用

がん教育の実施に関するお問合せは、下記までご連絡下さい。

香川県庁健康福祉総務課 がん糖尿病対策・健康づくりグループ

電話 087-832-3261

がん医療に関するお問合せは、下記までご連絡下さい。

香川大学医学部附属病院 がん診療相談支援室

電話 087-891-2473 (直通)